

東日本大震災で津波被害を受けた自治体の公文書

宮城県南三陸町

平成17年に旧志津川町、旧歌津町が合併して誕生した町で、三陸海岸沿いの志津川地区、戸倉地区、歌津地区と内陸部にある入谷地区で構成されている。

表 南三陸町の被災概要

死者	549	国調人口	17,431
不明者	437		
計	986	割合	5.66%
倒壊戸数	3,311	世帯数	5,295

1 町役場庁舎の津波被害

南三陸町役場は、志津川湾の最も奥にある志津川漁港から約400mの市街地の中心部にあった木造庁舎は全壊しコンクリートの基礎を残すのみで、隣接する防災対策庁舎（重量鉄骨3階建て）は、外壁は津波によりすべて剥がされ、残された鉄骨に養殖筏のロープや浮きが屋上部分までまとわりついていた。



鉄骨のみが残る防災対策庁舎（5月6日撮影）

南三陸町役場の庁舎前にはチリ地震による津波が2.3mの高さで町役場を襲ったとの記録を示した看板があったが、今回の津波これを遙かに上回り、鉄骨造り

3階建て防災対策庁舎の屋上を超え、庁舎内で対策会議を開いていた町の幹部職員が犠牲となったが、幸い町長以下10名の職員は屋上の電波塔にしがみついて救助されている。

今回の津波被害では、救済業務の拠点となるべき町役場が被災したため、震災直後の職員の仕事は、自治体職員としての仕事よりも一町民として被災者の救済が主力であり、自治体職員としての本格的な仕事は5月下旬に仮設庁舎完成以降となったと述べていた。

2 公文書の被害状況

永年保存文書が保管されていた書庫は、過去の経験を踏まえ強固な防災対策庁舎3階に設置されていた。防災対策庁舎は、宮城沖地震を想定して建設されたが、想定を遙かに超える津波により公文書はすべて流失している。

南三陸町では、文書管理にシンクライアントを導入し、作成された電子データはすべてサーバー内に蓄積されていたが、防災対策庁舎2階に設置されていたサーバーも流失し、役場内で保管されていたすべての電子データが失われた。



チリ地震の津波の記録

今回の津波では、気仙沼法務局も被災し、一時は、

南三陸町の戸籍データがすべて消失した可能性が高いと報道されたこともある。幸い、気仙沼法務局内の電子データは被災を免れ、シンクライアントの委託先でも重要なデータは保管されていたため、両者を照合しデータの復元作業が行われた。なお、旧歌津町役場があった歌津支所も全壊し、町の歴史を記録した行政資料のほとんどが津波により失われている。

3 南三陸町の被害の概要

志津川湾、伊里前湾沿いの海岸に面した平坦部では、人家は津波により流失し、家屋の基礎部分のみ残されていたが、津波による浸水面積は南三陸町の建物用地の5割に相当する3k㎡に及んでいる。

津波の威力を物語る事例として、町役場の出納室にあった金庫が引き波によって500m以上海側に流されていた。



津波被害を受けた乗用車



住居区基礎のみ残る歌津地区



仮設庁舎内の案内板



志津川高校体育館（ビギンの演奏会）